

# 石川県生協連だより

**第116号**

石川県生活協同組合連合会  
 〒920-0362 金沢市古府2-189  
 コープしかわ古府センター2F  
 TEL076-259-5962 FAX076-259-5963  
 http://ishikenren.jp

発行日/2026年3月25日  
 発行責任者/大谷 学



生活安全課 村田課長より石川県消費者基本計画についてご説明いただきました



活発な意見交換が行われました



「食品安全コミュニケーター育成講座」について報告する  
 コープ北陸事業連合  
 安全政策部担当 谷内 綾子氏

今回はじめて「行政懇談会」に参加させていただき、県生活安全課の村田課長より「石川県消費者基本計画」の説明をいただきました。

この計画は、高齢化やデジタル化による消費者トラブルの多様化を丁寧につまみ、相談体制の強化や教育の充実を柱としている点が印象的でした。

特に、高齢者や若者への重点的な支援、災害時の相談体制整備など、具体的に実効性の高い施策が示されており、県民の安全・安心を総合的に支える姿勢を強く感じます。行政・学校・地域の連携を重視する構成も、持続可能な消費者支援に向けて重要だと感じました。

(石川県勤労者共済生活協同組合(こくみん共済coop) 石川推進本部 事業推進部長) 北野 大輔

## 2025年度 生協連行政懇談会

### 「石川県消費者基本計画について(県生活安全課)」

日時 2026年1月27日(火)  
 会場 石川県地場産業振興センター 本館 第7会議室

### 参加者の声(アンケートより抜粋)

・「石川県消費者基本計画」については初めて詳細を勉強させていただくことができました。小中高等学校、大学における取り組みをいろいろされていることが分かりました。高齢者のみならず若年層での消費者被害も無視できない状況になっていると感じました。実効性を持たせるためにも相談体制強化、教育、情報提供推進とともに安全性の確保の具体的実践が積極的に行われることが必要に思いました。その際は消費者市民ネットワークなどの団体との連携が重要に思いました。

・消費者被害に遭う場面が多い世代が30代〜となっていた事も驚きました。最近AI等の発展もあり、以前より騙そうとする手口がより巧妙になってきている事も原因だと思います。最新の情報をいかに共有化できるかが大切だと感じました。

# 石川県生活協同組合連合会 創立60周年 記念講演会

● 日時 2026年2月28日(土) 10:00~12:00  
 ● 会場 ホテル金沢 ダイヤモンドB

石川県生活協同組合連合会が創立60周年を迎えました。この佳節を記念し、日本生活協同組合連合会 代表理事副会長の嶋田裕之氏を講師としてお迎えし、創立60周年記念講演会を開催いたしました。

当日は、来賓・会員生協の役員、併せて80名の参加となりました。

## ● オープニング

音楽活動を通じて被災者に「心の元気」を届ける活動に取り組まれる「オーケストラ・アンサンブル金沢」のメンバーによる弦楽三重奏で華やかに幕を開けました。

## ● 来賓祝辞

村山卓金沢市長からは、市民の消費生活を守る活動についての感謝の言葉と、消費者目線によりよい暮らしの実現に向けて、石川県民に寄り添う新たな一歩に期待をいただきました。

北陸農政局消費・安全部消費生活課課長の定塚昌之様からは、多岐にわたる「食と農」に係る課題の解決に向けて、更なる地域連携を願う植野栄治局長からのメッセージが披露されました。

石川県生活安全課課長の村田敦様からは、馳浩県知事からの被災地での支援活動への感謝と、県民の安心安全なくらしを守るため、地域社会における連携への期待を寄せるメッセージが披露されました。



オープニングを飾るオーケストラ・アンサンブル金沢の皆さんによる弦楽三重奏



村山金沢市長よりご祝辞を賜る

## ● 記念講演

「生活協同組合の果たしてきた役割と今後について」と題し、嶋田副会長よりご講演いただきました。

協同組合の発祥から協同組合原則を経て、定義と価値を明確にし、新たに「コミュニティへの関与」を原則に加えた「協同組合のアイデンティティに関するICA声明」採決の歴史や、国連が定める「国際協同組合年」について、協同組合に期待される役割や日本の取り組みについて、分かりやすく解説いただきました。

また、日本生協連の設立総会にて、「よりよい生活は『平和』が前提である」との強い想いで採択された設立宣言「平和とよりよい生活のために」を理念とし、継続して行われている生協の平和活動について学びました。

さらに生協が消費者組織として、消費者運動を通じて果たしてきた社会的役割について、改めて振り返り、事業者としての責任を自ら課すことによって、社会を大きく動かしてきた実績を学びました。

また、日本各地で猛威を振るう自然災害では、被災地支援の取り組みにおいて、生協のつながりが被災地に寄り添い、支える重要な役割を担っていることを再認識しました。

助け合いを実践し続ける生協は、地域を豊かにする組織として、これからの未来へ理想を持ち協同を実践することの大切さを深く感じた講演会となりました。



講演会 会場の様子



日本生協連 嶋田副会長理事

# 石川県生活協同組合連合会 創立60周年 記念講演会



生協連のこれまでの歩みを振り返る機会となりました



生協連60年の歩みを報告する  
吉本専務理事



永年勤続表彰を受ける  
事務局の加藤喜美子さん

## 参加者の声(アンケートより抜粋)

◆ 嶋田副会長の話を拝聴し、被災者生活再建支援法の制定に向け、日本生協連、神戸市、連合それと当会で2500万署名活動に取り組んだことを思い出しました。当日、生活者自らの手で社会を変える力がある事を痛切に感じました。

◆ 生活協同組合の誕生から、今に至るまでの世界や日本の現状とそこにおける生活協同組合の役割について要点を凝縮した形で学べることができました。世界において、日本において生活協同組合の役割がますます重要になってきていると強く感じました。有意義な講演ありがとうございました。

◆ 今回の講演を拝聴するまで、生協と平和活動の結びつきについて、実はあまり明確なイメージを持っていませんでした。しかし、嶋田副会長のお話を通じて、「平和とよりよき生活」こそが生協活動の根底にある揺るぎない理念であることを学び、その歴史的背景や意義を理解することができました。私たちの日常の暮らしを支える活動が、そのまま平和への願いにつながっているのだと実感し、非常に有意義な時間となりました。

## 2025年国際協同組合 記念フォーラムinいわ

〜協同でつなぐ「防災・減災への備え」〜

### 基調講演

「能登半島地震災害と豪雨災害を振り返る  
―正しく恐れ、備えるために―

● 日時 2025年11月10日(月) 石川県農業会館

● 会場 地場産業振興センター本館 第7研修室

国連が今年度を2012年以来13年ぶりとなる「国際協同組合年」と定められたことを受け、JA・漁協・森連・生協の県内協同組合組織の連携のもと、その認知の向上と協同組合の振興に向け、国際協同組合年記念行事として「2025国際協同組合年記念フォーラムinいわ」を開催しました。東北大学大学院 西出則武特任教授から「能登半島の地震災害と豪雨災害を振り返る―正しく恐れ、備えるために―」と題して講演をいただき、防災に対するリスク、減災に向けた備えなどについて、各協同組合の役職員222名が学習しました。

参加者アンケートから「災害は防げないけど防災はできるので組合員等へ伝え続けたい」「気象や災害等にかかるデータが示されわかりやすかった」との感想がありました。また、今後の協同組合間連携について「イベント等を通じてもっと連携を進めてほしい」「職員間で交流し、意見交換する場を作ってほしい」等、さらなる連携・協同を期待する声が多くありました。

(石川県生活協同組合連合会 専務理事 吉本 輝芳)



各協同組合の役職員が一堂に会しました



東北大学大学院 西出則武特任教授

2006年～2025年

石川県生活協同組合連合会 創立60周年特集企画 vol.3 「生協運動の拡大」

●生協のあゆみ(2006年～2025年)

2007年	能登半島地震 県生協連「能登半島地震災害義援金」口座を開設、全国からの義援金8,564万円を石川県災害対策本部に贈呈
2008年	消費生活協同組合法改正
2011年	白山市と「災害時における生活必需品資協力協定」調印 第1回地方消費者グループ・フォーラム金沢開催
2012年	国際協同組合年石川県記念大会、 県連事務所移転(コープいしかわ古府センターへ)
2013年	厚生労働大臣表彰受賞 県生協連 横山会長理事・金沢大学生協 「消費者支援ネットワークいしかわ」設立
2014年	石川県消費者団体連絡会を発展的に解散
2015年	県生協連創立50周年記念事業
2018年	厚生労働大臣表彰受賞 個人 青海万里子氏、組合 コープ北陸事業連合
2019年	いしかわフードバンク・ネット設立総会
2020年	新型コロナウイルス感染症拡大
2023年	厚生労働大臣表彰受賞 個人 長谷川隆氏、組合 石川県勤労者共済生協
2023年	新型コロナウイルス感染症「5類」移行
2024年	令和6年能登半島地震、奥能登豪雨
2024年	第54回石川県消費者大会(今回で終了)
2024年	日本被団協ノーベル平和賞受賞
2025年	国際協同組合年記念フォーラムinいしかわ

●生協の発展・拡大

消費生活組合法(生協法)が59年ぶりに改正され、2008年4月1日に施行されました。2012年、2025年の国際協同組合年(ICY)では、記念行事を開催し、協同組合の果たしてきた役割について県民に知らせることが出来ました。2020年の新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は、「事業継続の危機」「つながりの危機」「くらしの危機」「経営の危機」の4つの危機をもたらしました。コロナ禍の中で

会員生協では組合員の安全を最優先にさまざまな対策、活動の工夫に取り組みました。令和6年能登半島地震では、全国の生協の皆さん及び日本生協連より多大な物的、人的支援をいただきました。被災地は今なお復旧、復興の途中であり、息の長い支援が求められています。また2024年、長年にわたる地道な核兵器廃絶の活動が認められ、日本被団協がノーベル平和賞を受賞しました。

生協連創立60周年に寄せて

あの頃、あの時



元会長理事 長谷川隆史氏 近影  
リタイア後は、世界平和の想いを胸に国際交流の旅に。

1979年に石川生協に入った頃は、事業規模で金大生協や学校生協のほうが大きかった記憶があります。地域生協は七尾生協、小松市民生協、石川生協がありました。その当時それぞれの常勤トップが良くも悪しくも個性が強烈で、生協連と言う場だからなんとか一緒にやっていた感があります。

生協連の思い出としては、様々な団体や市民と一緒に作った、反核・平和おりづる市民のつどい実行委員会でのおりづる平和行進。また、消団連でメーカーを呼んで行った商品テスト活動が記憶に残っています。

その後、1990年前後に特に地域生協の経営や運営の混乱が相次ぎ、そこから克服する中で生協連を通じて、県内地域生協が一つに合併したことが最も画期的なことでした。

(元会長理事 長谷川隆史氏)



生活協同組合コープいしかわ  
専務理事 濱上 康弘氏

令和6年能登半島地震、奥能登豪雨は一瞬にしてあたりまえの日常を奪いました。復旧復興に向けて、発災当初より全国生協の仲間からの支援に勇気と元気をいただいています。

被災地の報道が減少する中、「負けとられん！能登を笑顔に」をスローガンに、被災地の生協として能登を忘れないでほしいという願いの実現に向けて、情報発信を継続しながら全国生協の仲間とともに息の長い支援を続けていきたいと思っています。

県連では、協同の力や想いが共有できていることが尊いと感じています。各生協の事業内容は異なりますが、その目的である組合員の願いをかたちにしていくことは同じだと思っています。

60年の歴史の中で県連が果たしてきた役割や今後に向けて、皆さんと一緒に学びながらこれからも取り組んでいきたいと思っています。

(生活協同組合コープいしかわ)

専務理事 濱上 康弘



# 石川県生活協同組合連合会 創立60周年に寄せて part.2

生活協同組合コープいしかわ

石川県勤労者共済生協

石川県学校生活協同組合

大学生協事業連合

石川県工業高等専門学校生活協同組合



石川県勤労者共済生協  
前専務理事 宮澤 裕二氏

能登半島地震発災の50日前、私たちは生協連が参加する「石川県防災総合訓練」能登町開催会場に「こども防災体験」ブースを出展し、「VRゴーグル」を使った地震等の疑似体験には大勢の子どもが行列し、会場は喚声に包まれました。

出展に際しては併設した「防災クイズ」コーナーにも必ずご案内し、地震から身を守る行動などのクイズに参加いただき、決めたものの興味を示してくれ、か心配でしたが子どもたち皆の一生懸命考える姿がとても可愛く印象的でした。

そして、元旦の発災から呆然とした時間が過ぎる中で「あの子どもたちは皆無事なんだろうか？」突然震える思いに駆られました。たとえ僅かでも命を守る行動に繋がって欲しい、そんな思いをあらたに減災・防災活動が続けています。

(石川県勤労者共済生協  
前専務理事 宮澤 裕二)



石川県学校生活協同組合  
専務理事 中多 晃氏

学校生協と生協連の関わりの中で特に印象に残っているのは、毎年開催される石川県生協連行政懇談会での学びです。厚生労働省による検査で散見された指導事例の共有は、自分たちの事業運営を見直す貴重な機会となり、組織としての責任の重さを改めて実感しました。また、昨年の「カーボンニュートラルを巡る状況」と石川県の施策について」の説明では、環境課題への具体的な取り組みを知ることができ、大変勉強になりました。さらに、いしかわエコハウスの見学では、省エネや創エネ技術を実際に体感し、環境配慮型社会の実現に向けた生協の役割を強く意識する機会となりました。

(石川県学校生活協同組合  
専務理事 中多 晃)



大学生協事業連合 常務理事  
(関西北陸地区統括)  
國見 伸行氏

石川県生協連 創立60周年おめでとうございます。

1999年に、全国最後の事業連合として北陸事業連合が設立されました。この時より、石川県生協連に加盟させていただきました。その後、2016年に旧京都事業連合と旧阪神事業連合と合併し関西北陸事業連合が発足し、2018年には全国の6事業連合が合併し現在の大学生協事業連合となりました。

合併まもなくコロナ禍となり、大変な事態となりましたが、石川県生協連様をはじめ、県民の皆様から温かいご支援やご声援を賜り、学生にとつては大きな支えとなりました。改めて深く感謝申し上げます。

《学生総合共済》新社会人コープでは、地域生協との連携も深まっています。今後とも協同組合運動の発展に尽力いたします。

(大学生協事業連合 常務理事  
(関西北陸地区統括) 國見 伸行)



石川県工業高等専門学校  
生活協同組合  
谷口 修氏

石川高専生協は平成16年3月18日に設立をし、同じ年の4月28日に貴連合会に加入致しました。

思い出に残るエピソードとして一番印象に残りますのは令和6年1月1日に発生した「震災」の時となります。石川工業高等専門学校は、この能登半島地震により、大きな損傷を受けることになりました。体育館や武道館は使用できないほどの被害を受け、取り壊しとなりました。グラウンドの土手も崩れ、2年たった今もそのままの状態が残っています。貴連合会の加藤様より、震災後速やかにお電話を頂き、職員の安否や状況の確認の問い合わせを頂きました。大変心強かったです。今回の件で、石川県生協連合会様と石川高専生協の関係は更に強いものとなったと考えております。

あらためてこの度の設立60周年おめでとうございます。感謝も含めここにお祝い申し上げます。

(石川県工業高等専門学校生活協同組合 谷口 修)

## 県生協連活動日誌

- 12 ● 12月 3日 第3回三役会▶Web会議  
● 12月 5日 2025年度 第2回東海北陸県連協議会 意見交換会  
▶静岡県  
● 12月10日 石川県指導検査▶県連事務所  
● 12月12日 令和6年度石川県農業活性化協議会第2回通常総会  
▶石川県農業会館 大会議室  
● 12月15日 ほくりく「食」と「農」の消費者ネット構成員の意見交換会  
▶北陸農政局  
● 12月16日 石川県ユニセフ協会第2回理事会・第1回評議員会  
▶石川県地場産業振興センター  
● 12月16日 消費者支援ネットワークいしかわ勉強会  
▶金沢市長土堀青少年交流センター  
● 12月22日 労福協第6回理事会・懇親会  
▶ANAホリデイイン金沢スカイ
- 1 ● 1月 6日 連合石川・労福協「新春の集い」  
▶ANAクラウンプラザホテル金沢  
● 1月 7日 第5回理事会▶石川県地場産業振興センター  
● 1月 8日 消費者支援ネットワークいしかわ第5回理事会  
▶金沢市長土堀青少年交流センター  
● 1月 9日 年始挨拶回り▶石川県庁、県漁協  
● 1月13日 ホテル金沢下見▶ホテル金沢  
● 1月13~14日 日本生協連新年方針交流会・賀詞交歓会▶東京  
● 1月14日 第2回金沢市食の安全安心委員会  
▶金沢市保健所・欠席  
● 1月15日 第3回広報委員会▶Web会議  
● 1月19日 年始挨拶回り▶北陸農政局、森連  
● 1月20日 第5回企画運営委員会▶文書開催  
● 1月22日 年始挨拶回り▶JA中央会、金沢市長、市民局長  
● 1月23日 第3回新たな「いしかわの食と農業・農村ビジョン」  
検討委員会▶オンライン出席  
● 1月26日 令和7年度第2回「石川県食品安全安心対策懇話会」  
▶石川県庁会議室  
● 1月26日 第97回石川県メーデー「第1回実行委員会」  
▶フレンドパーク  
● 1月27日 2025年度石川県生協連行政懇談会  
▶地場産業振興センター  
● 1月29日 生協連創立60周年第6回実行委員会▶Web会議  
● 1月29日 関西地連第4回運営委員会▶Web会議  
● 1月29日 県連活動推進会議▶Web会議  
● 1月31日 県連新年会▶大名茶家
- 2 ● 2月 2日 消費者支援ネットワークいしかわ第4回消費者部会  
▶金沢市女性センター・オンライン  
● 2月 3日 第4回三役会(延期)▶Web会議  
● 2月 4日 令和7年度石川県災害対策ボランティア連絡会  
▶オンライン  
● 2月12日 いしかわフードバンク・ネット第8回運営委員会  
▶フレンドパーク石川  
● 2月17日 生協連第4回三役会▶Web会議  
● 2月18日 佐賀県連役員研修対応  
● 2月19日 労福協第7回理事会▶女性センター2F研修室2  
● 2月19日 労福協第49回研究集会(第22LSC研修会合同)▶欠席  
● 2月28日 石川県生協連60周年記念講演会▶ホテル金沢
- 3 ● 3月 4日 第6回理事会▶Web会議  
● 3月 4日 関西地連第4回非常用通信機器訓練  
● 3月10日 消費者支援ネットワークいしかわ第6回理事会  
▶金沢市長土堀青少年交流センター  
● 3月12日 石川県消費生活支援センター「消費者のつどい」  
▶石川県消費生活支援センター  
● 3月18日 第6回企画運営委員会▶Web会議  
● 3月19日 第22回ライフ・サポートセンター代表者会議  
▶ANAホリデイイン金沢スカイ  
● 3月24日 グリーン・アース農地・水・環境保全組織  
第17回アドバイザーグループ会議  
▶河北潟農業研修館 研修室  
● 3月27日 2026年度総会議案検討会議▶Web会議  
● 3月31日 関西地連第5回運営委員会▶Web会議

## 私のおススメの一冊

## 『生物はなぜ死ぬのか』

講談社現代新書  
小林 武彦 著

とにかく面白い!是非ご一読ください!  
生物の「生」、「死」について視野が広がります。  
私も年齢のせいか、最近よく「死」について考える  
ようになりました。

そんなある時、超読書家の妻から聞いた著者(小林  
武彦氏)の話の思い出し、まずはと思ったのがこの本  
です。

小林武彦氏は生命科学の著名な方ですが、一般人  
にも興味深く楽しく読めるよう平易かつ語り口調で  
理系音痴の私でもとても楽しく読めました。

・地球ができ、生物が生まれ、今があるって、想像を  
絶する偶然の産物らしい。

・生き物は「進化がつくったもの」、「死」も進化が作っ  
た生物の仕組みの一部。

・生物にはいろいろな「死に方」がある。昆虫の寿命  
は子孫を残すためだけに使われる。カゲロウの寿命  
は24時間足らずで脱皮、交尾、産卵して死んでいく。  
食べる必要がないので口がない。などなど。へえ~!  
なるほど!そうなんだ!の連続。

「生き物が生まれるのは「偶然」だが、死ぬのは  
「必然」。「死は生命の連続性を維持する原動力」

このことは、自分の「死」というものの捉え方を大  
きく変えるきっかけとなった感じです。

金沢大学生協 坂口 辰彦

## 編集後記

私がコープいしかわに入協した1年目に地域担当者として、当時フレンドパークに事務所のあった石川県生協連へ配達に行っていました。その時に班のみなさんの注文書を取りまとめてくれていたのが加藤さんです。当時はこんなに長くお付き合いが続くとは思っていませんでしたが、地域担当者から役割が変わっても、今も変わらずに加藤さんは優しく接してくれています。60周年記念講演会にて永年勤続表彰される加藤さんの姿を見て、改めて昔の思い出とともに感謝の気持ちがあふれてくる機会となりました。

コープいしかわ 佐々木 智一